

心に残る文化財子ども塾 松江市立持田小学校

1. 活動の概要

7月8日(水)、松江市立持田小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

今回の体験のメインは、学校の近所の古墳探検でした。子どもたち(35人)が「A」「B」2グループに分かれ、「A」グループが大源古墳→太田古墳群へ、「B」グループが太田古墳群→大源古墳の順に見学しながら、県古代文化センター職員の話の話を聞きました。大源古墳が直径37mあり、県内の「円墳」のなかで上位にくる大きさであることなどの話を聞きました。もう一つの太田古墳群は住宅地の中に混じるように5つの古墳があります。ご近所の家や庭、玄関先などにある古墳を、地権者の方のご厚意で拝見することができました。古墳の被葬者を納めた中心部分である「石室」へも入ることができました。実際に入ってみて「意外に広い」という声が、何人かから上がりました。

大きな一枚石を組み合わせて作られた「石棺式石室」が5箇所も集中する場所は珍しいこと等を学習しました。

続いて、小学校近くの遺跡等から出土した土器について、実物を見ながら職員の説明を受けました。教室の真向かいに見える「堤ノ上」遺跡の遺物を、松江市のご厚意でお借りし、「大源古墳」と同時代の遺物であること、もう一つの「東前田遺跡」の土器は色も作り方も違うことを学習しながら、千年以上前の土器の重さ、手触りを実感していました。

2. 活動の様子

1) 「大源古墳」の見学



「右側に見える山全体が古墳(!!!)」



「“持田王”がいたのかもね」

2) 「太田古墳群」の見学



先陣をきる



「もぐるの!?この中に…」

3) 小学校周辺の遺跡や見つかった土器について知る



遺物の説明を聞きました



実際にさわってみました

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・今日ぼくたちが見たところを昔の人たちも見ていたと思うと、不思議な感じでした。
- ・しっかり古墳をみれて、入ってこんな広さなんだなと思いました。古墳の中はひみつきちみみたいでかっこよかったです。
- ・古墳の中に入って、思ったより広くてびっくりしたこと。
- ・家のような形の古墳が心に残った。

2) 担任の先生から…

- 地域の古墳や出土品を扱い、児童にとって身近なものと感じることができた。
- 実際に古墳の中に入ることができた点がよかった。

3) 埋文センターから

大源古墳の大きさにびっくりした、あるいは太田古墳群の石室の中が意外と広かった、ということを感じてもらいました。大きな一枚石を組み合わせたり、くりぬいたりして作られた石室—その集中度と併せて、古代人のエネルギーを感じてもらえたように思います。

雨が降った直後で古墳の入り口も周りに生えている草もぬれていたにもかかわらず、臆せず石室へずんずん入っていく皆さんたち、頼もしかったです。みなさんの校区付近は、足を伸ばせばいろんな古墳があるので、楽しんでみてほしいものです。

見学をお許しいただいた地権者のみなさま、ありがとうございます。